

## F-1

## 東京都大田区臨海部における地区交流型まちづくり学習プログラム構築に関する研究 —(その1)担当教諭による学習プログラムの評価—

### A Study on the Construction of District Interleague in Town Planning Education Program at Ota-ku Waterfront - (Part1) A Evaluation of the Education Program by the Teacher in Charge-

○首代佑太<sup>1</sup>, 横内憲久<sup>2</sup>, 岡田智秀<sup>3</sup>, 押田佳子,<sup>3</sup> 三嶋武典<sup>4</sup>\*Yuta Shudai<sup>1</sup>, Norihisa Yokouchi<sup>2</sup>, Tomohide Okada<sup>3</sup>, Keiko Oshida<sup>3</sup>, Takenori Mishima<sup>4</sup>

Abstract: This study investigated to grasp the evaluation of the education program from teacher's voice. The followings are the results: 1.The small group was benefit to workshop, 2.The feasibility lesson for the workshop were effective, 3.The minimum times to operation workshop, 4. The problem which establish the implementation period.

#### 1. はじめに

筆者らは先行研究<sup>[1]</sup>において東京都大田区臨海部に位置する大田区立大森第五小学校(以下,「大五小」と大田区立羽田小学校(以下,「羽小」)を対象に,地区交流型ワークショップ(以下,地区交流WS)を通じたまちづくり学習を展開し(Figure 1),地区交流WS実施にあたっての児童への効果・留意点を捉えてきた。しかしながら,地区交流WSの学習プログラム構築にあたっては児童への効果のみならず,実際の指導にあたる担任教諭からの評価・課題・効果等を捉え,その結果を望ましいかたちで学習プログラムへ反映させることが重要と考える。

そこで本稿では,上述した地区交流WSプログラムを実施した担任教諭の評価を把握し,それを通じて地区交流WSの学習プログラム構築にあたっての留意点を明らかにすることを目的とする。

#### 2. 研究方法

本稿では「羽小」と「大五小」において地区交流WSを実施した2011年度の第6学年担任(「羽小」:2名「大五小」:2名)を対象に地区交流WSの実施プログラムの評価についてのヒアリング調査を行う(Table1)。

#### 3. 結果および考察

4名のうち現在までに回答が得られている3名(「羽小」:2名「大五小」:1名)の回答内容をTable2に示す。以降では,これに基づき特徴的な事項を述べていく。

(1)本プログラムの工夫点の評価—Figure 1に示す「工夫点」についてTable2の「良かった点」に着目すると,3名全員から「少人数グループで実施したこと」「全グループに大学生が入っていたこと」「大学生を相手に説明練習が出来たこと」があげられた。これらは,各学校の児童5~6名と大学生1~2名を1グループとす

る少人数構成としたため,まちあるきの際に大学生が監視役となって児童が安心してまちを歩くことができ,大学生に対して児童が親近感をもって接することが出来た結果,学習効果が向上したと評価された。さらに,本プログラムでは各学校で地区交流WSの直前に予行演習として児童が大学生を相手に地域の特徴を説明するまちあるきWSを行ったことで,児童は発表スキルや自信向上に繋がる効果があったとされる。

一方で,「紙芝居形式」による地域の特徴説明が課題としてあげられた。本プログラムでの教示方法は,相手方校の児童にわかり易く印象付けるために,教示内容と関連のある写真や図を掲載した「紙芝居」を用いた。しかし地区交流WSの際,児童が紙芝居の説明文を棒読みし,児童自らの言葉で話せなかったと評価された。

(2)地区交流WSプログラムの総合評価—地区交流WSの総合評価においては,3名すべてが「満足」とした。この理由として,「地区交流WSでの目的を達成できた」「児童が自ら考え,分析し発展させていくというサイクルができ,意味のある取り組みだった」とし,地区交流WSを今後も取り入れたいとの回答であった。

しかし,問題点として3名すべてが「取り組み期間が短かった」「地区交流WS以前に両校にとって互いを知る時間がなかった」ことをあげた。この理由として「取り組みを2学期だけでなく1学期からやりたかった」「地区交流WSで初めて互いの児童が顔を合わせ,初期のコミュニケーションが取りづらそうであった」ことがあげられる。実施期間3カ月で各学校が3~4回の

Table1.The method of study

調査日時	2012年9月18日・19日・24日(1人あたり1時間程度を要した)		
調査方法	対面形式による個別ヒアリング調査		
学校名	担当教諭	教員歴	質問項目
羽小	A	6年	・地区交流WSに参加した目的 ・地区交流WSにおける工夫点の評価 ・地区交流WSにおける問題点と課題点
	B	8年	
大五小	C	6年	・プログラムの総合評価とその理由

WSを実施し日程の余裕がなかったことが課題とされる。また、地区交流WSの取り組み以前に児童同士の交流会を開催することの必要性が提示された。そこで、地区交流WSの学習プログラムを構築する際には、今回の取り組みのWSの回数を最低限とし、学校間の余

裕ある日程調整のもと地区交流WS開催前に児童同士が交流する機会を設ける必要性が認識できた。

4. 参考文献

[1] 首代佑太ほか 3 名:「都市臨海部における海辺まちづくり教育のあり方に関する研究—東京都大田区臨海部を対象として—」, 第45回土木計画学研究発表会, 2012. 6

日時	大森第五小学校	羽田小学校
2011年 1月	1月13日 第一回大五小まちあるきWS [目的: 地元大森地区を認識] 内容: 大学生が児童に大森の地域資源を説明しながらまちあるき(写真-1) 【工夫点】: 1班を4~6人にし, 各班に大学生1人を配置/教示方法は紙芝居形式	 写真-1: 紙芝居を用いた大学生による説明風景
4月	地区交流まちづくりWS開催決定	
10月	10月25日 第二回大五小まちあるきWS [目的: 地区交流WSに向けた説練習] 内容: 地区交流WSのリハーサルを大学生相手に行う/大学生は指導にあたる 【工夫点】: 本番直前に行くことで児童の記憶に残りやすくする	10月4日 第一回羽小まちあるきWS [目的: 地元羽田地区を認識] 内容: 大学生が児童に羽田の地域資源を説明しながらまちあるき 【工夫点】: 1班を4~6人にし, 各班に大学生1人を配置/教示方法は紙芝居形式
	10月27日 第一回地区交流まちづくりWS [目的: 大五小児童が羽小児童に大森の地域資源を説明] 内容: 大五小児童が羽小児童に大森地区を説明しながらまちあるき(写真-2)/終了後, 羽小児童はWS形式で大森地区の印象を議論 【工夫点】: 1班を4~6人にし, 各班に大学生1人を配置/説明は紙芝居形式	
12月	 写真-2: 紙芝居を用いた児童による説明風景	12月5日 第二回羽小まちあるきWS [目的: 地区交流WSに向けた説明練習] 内容: 地区交流WSのリハーサルを大学生相手に行う/大学生は指導にあたる 【工夫点】: 本番直前に行くことで児童の記憶に残りやすくする
	12月9日 第二回地区交流まちづくりWS [目的: 羽小児童が大五小児童に羽田の地域資源を説明] 内容: 羽小児童が大五小児童に羽田地区を説明しながらまちあるき/終了後, 大五小児童はWS形式で羽田地区の印象を議論 【工夫点】: 1班を4~6人にし, 各班に大学生1人を配置/教示方法は紙芝居形式	
2012年 2月	2月10日 児童交流会 [目的: 今までの地区交流WSを踏まえ, 双方のまちの今後について話し合う] 【工夫点】: はじめに, 大学生が今までの取り組みを振り返るためのプレゼンテーションを実施/児童の発表は黒板にまとめる	

凡例     : 大五小と羽小が合同で実施した取り組み

Figure1. The flow chart of the district interleague work shop

Table2. The hearing result

学校名	担当教諭	教諭個々の設定したねらい	目的達成度	工夫点		
				良かった点	悪かった点	
羽小	A	①自分の住んでいるまちに愛着を持ってもらう ②発表スキルの向上	○	①少人数グループで実施したこと ⇒理由: 子供達ははっきりと説明でき, その場で質問ができた ②全グループに大学生が入っていたこと ⇒理由: 大学生が質問してくれたり, アドバイスをしてくれた ③大学生を相手に説明練習が出来たこと ⇒理由: 大学生に修正点を教えてもらえ, よい発表に繋がった	・特に見あたらない	
	B	①自分の住んでいるまちに愛着を持ってもらう ②発表スキルの向上	○	①少人数グループで実施したこと ⇒理由: 大学生が一人一人に声をかけやすく, まちの良さを知ることができた ②全グループに大学生が入っていたこと ⇒理由: その場で様々な情報を受け取ることができた ③大学生を相手に説明練習が出来たこと ⇒理由: 発表するうえで足りないことを知る機会になった	・紙芝居形式 ⇒理由: 発表練習の際に, 後ろに貼ってあった説明文が壊れちゃってしまい, 自分の言葉で話せていない人が多くなってしまった	
大五小	C	①自分の住んでいるまちに愛着を持ってもらう ②自分のまちに興味を持って課題を見つけ・調べ・分析し・より発展させること	○	①少人数グループで実施したこと ⇒理由: 一人一人が取り組みと向き合えた ②全グループに大学生が入っていたこと ⇒理由: 各チームに大学生がいることでまちあるきの際, 安全に進められる ③大学生を相手に説明練習が出来たこと ⇒理由: 大学生相手に練習することで, 自信に繋がった	・紙芝居形式 ⇒理由: 自分達で発表する際には自分の言葉で発表することが必要なので, 後ろに貼ってある説明文は必要なのではないか	
学校名	担当教諭	総合評価		問題点・課題点		地区交流WSを今後とも取り入れたいか
		満足度	理由			
羽小	A	満足	①地区交流WSでの目的を達成することができた ②やって良かったと言う児童が多かった	①取り組み期間が短かった ⇒理由: 取り組みを2学期だけでなく, 1学期からやりたかった ②地区交流WS以前に両校にとって互いに知る時間がなかった ⇒理由: 地区交流WSで初めて互いの児童が顔を合わせ, 初期のコミュニケーションが取りづらそうであった ③児童交流会の時間が短かった ⇒理由: 当日の時間が短く, 議論の時間がとれなかった		○
	B	満足	・子供達がまちの良さについて沢山のことを知ることができた	①取り組み期間が短かった ⇒理由: 取り組みを2学期だけでなく, 1学期からやりたかった ②地区交流WS以前に両校にとって互いに知る時間がなかった ⇒理由: 地区交流WSで初めて互いの児童が顔を合わせ, 初期のコミュニケーションが取りづらそうであった ③児童交流会の時間が短かった ⇒理由: 当日の時間が短く, 議論の時間がとれなかった		○
大五小	C	満足	・児童が自ら考え, 分析し発展させていくというサイクルができ, 意味のある取り組みだった	①取り組み期間が短かった ⇒理由: 取り組みを2学期だけでなく, 1学期からやりたかった ②地区交流WS以前に両校にとって互いに知る時間がなかった ⇒理由: 地区交流WSで初めて互いの児童が顔を合わせ, 初期のコミュニケーションが取りづらそうであった ③児童交流会の時間が短かった ⇒理由: 当日の時間が短く, 議論の時間がとれなかった		○

※満足度は, とても満足・満足・普通・不満・とても不満の5段階で評価した 凡例 ○: 肯定